

緑生瓦版

2009.09.01
第二十二号

MP/シン/ポにちか加して

八月二十八日に当社も所属するNPO(特定非営利活動法人野生物調査協会)主催のシンポジウムに参加しました。タイトルは「環境調査における生物定量評価手法」です。生物調査に携わるものにとっては、大きな壁となっている部分です。自然界における生物の種多様性や分布の不均一性など、生物にみられるさまざまな特異性が、調査結果の定量化(数値化)を困難なものにしています。今回はそういったことを踏まえて、西原昇吾先生、長谷川雅美先生、星野義延先生から水生昆虫類、両生類・爬虫類、植物について、具体的な事例や課題など貴重なお話を伺うことが出来ました。私たちも難しいと思っているだけではなく、やる気と柔軟な発想で、この課題に積極的に取り組まなければと思いを新たにしました。

調査部

坪山 聡

緑生研究所って、どんな会社…?

～ 自然の保全・再生技術の巻 ～

湿地の再生

近年、各地で自然の保全・再生が声高にさげられ、その技術の確立が切望されています。そこで、今回は弊社が取り組んだ自然の保全・再生事例のひとつである「ハッチョウトンボの保全に関連した湿地の再生」について、ご紹介します。(調査部 小林達彦)

対象となる生物の
生息条件の整理

対象となる地域の
現況把握

保全・再生方法の検討

具体的な保全・再生計画の策定

保全・再生の実施

モニタリング調査



ハッチョウトンボ (Nannophya pygmaea)

日本産不均翅亜目トンボ類中最小で、雄は成熟すると頭部まで美しく赤化します。平地から山地の草丈の低い湿原や湿地に生息し、本州、四国、九州に分布しますが、湧水起源の湿地を好むため産地は局限されます。湿地に非常に密接な種であると言えます。

湿地の再生では水温・水質を安定させるための良質な水の確保、遷移の進行を抑えるための 植生の適切な管理の2つの条件を満たす必要があります。

良質な水の確保

再生する湿地において滲出水や湧水が確保出来ていることが理想ですが、地下水の汲み上げや地下水(湧水)の導水によっても対応が可能です。本事例では近隣に湧水の透水層を含む斜面がみられたことから「地下水(湧水)の導水」を選択しました。

植生の適切な管理

同様の環境を維持するためには、一般的には成長抑制の刈り込みなどを行いますが、ハッチョウトンボの生息環境である湿地は草丈のごく低い水生植物が生育する中間湿原と呼ばれる遷移速度の速い、脆弱な環境であるため、長期的に環境を維持するためには一般的な方法に加え、以下の特殊な方法を採用する必要がありました。

- ・ヨシの伐根除去
- ・水生植物の部分的な剥ぎ取り

いずれも競争力の強い高茎植物の除去を目的とする方法です。これらの方法は一見乱暴な方法ですが、競争力の弱い植物を再生させるには非常に有効で、ヨシなど大型の水生植物を根こそぎ除去し、その後、移入措置は一切行わず、埋土種子の発芽や周囲からの新たな侵入により湿地(中間湿原)の再生を図るものです。



導水後の湧出状況



ヨシの伐根除去



水生植物の部分的な剥ぎ取り



生息個体が十個体以下にまで減少したこともありましたが、湿地の再生に伴い、その数も百を超えるようになりました。



再生後の湿地



写真だより



キバナシオガマ *Pedicularis cederi*

大雪山の高山帯の砂礫地や乾いた草地に生える多年草で、日本のシオガマ属中唯一花が黄色です。国外にも分布しますが、国内では大雪山にだけ咲きます。これは、北海道内の他の山域では大雪山よりも標高が低いため、氷期後の温暖化によって絶滅した可能性などが考えられます。

ホソバウルップソウ *Lagotis yescensis*

大雪山の高山帯の砂礫地に生える多年草です。北海道中央部、大雪山に生える高山植物の多くはユーラシア大陸と北米の寒冷地にも分布します。これは、氷期に分布を広げてきたためですが、長い年月の間に大雪山の環境に適応し、世界中でここだけに自生する固有種となったものもあります。本種は、その代表選手として有名です。



アンケートのお願い！

Q.「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えてください。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名：

所属：

氏名：

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、**緑生研究所(坪山)宛に FAX(042-487-4334)** をお願いいたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。
第二十三号は、冬の訪れが近い十一月一日の発行を予定しています。特集では『樹木医のお仕事』として、樹木医が実際にどのように診断を行うのかを紹介いたします。

女郎花、尾花、桔梗、撫子、藤袴、葛、萩、何でしょうか？
そうですね。「秋の七草」です。もともとは秋の野山で愛でるものであり、春の七種のように食べたりすることがないため、一般には、あまりなじみがないように思います。せっかくですから、ネットではなく、実際に秋の七草を探しに野外へ出かけてみてはいかがでしょうか。もしかすると、古の人々の想いに触れることが出来るかもしれません。



コラム

